「東京電力柏崎レジリエンスセンター」の建設・整備ならびに活用等に関する産学連携の取り組みについて

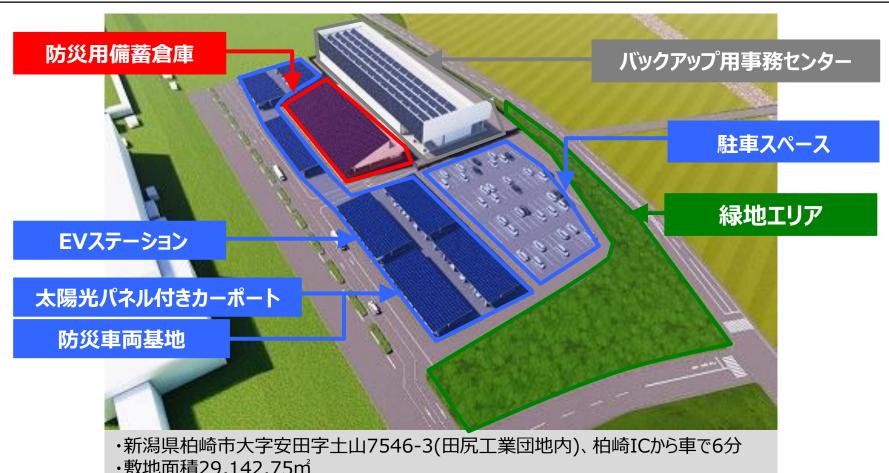
2023年4月19日

新潟工科大学 東京電力ホールディングス株式会社

- 東京電力柏崎レジリエンスセンターの概要
- 新潟工科大学と東京電力ホールディングスの産学連携の取組み

1. 東京電力柏崎レジリエンスセンターの概要

- 東京電力ホールディングスは、近年激甚化する災害への備えや対応力向上のため、首都圏と同時被災リスク の少ない日本海側の柏崎市田尻工業団地内に「東京電力柏崎レジリエンスセンター」を建設
- 事業継続に必要となるバックアップ用事務センターを備え、電力安定供給の復旧に必要な資機材を保管する。 る防災用備蓄倉庫、非常時は防災機能が整備された広場として、地域の方々に開放する緑地エリア等の 機能を有する



- ·敷地面積29,142.75㎡
- ・建物着工予定 2024年7月、建物竣工予定 2026年3月

2. 新潟工科大学と東京電力ホールディングスの産学連携の取組み

- 新潟工科大学は、令和元年度、建築都市学系に「都市防災コース」を設置。安心・安全な建築・都市を 創造する技術についての教育プログラムを開始
- ▶ 令和四年度は、地域安全・安心研究センターを設置。地域課題解決に関する研究を推進する体制を整備
- ▶ 新潟工科大学で都市防災を学ぶ学生と東京電力ホールディングスの協働で、緑地エリアの設計デザインに 関する意見交換会を2022年12月より開始

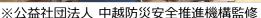
〈検討事項〉

- 災害が起きた時、地域防災の観点から防災機能が整備された広場にはどのような機能が必要か
- 非常時のために平時からどのような備えが必要か
- 平時の地域の賑わい創出への利活用について、どのようなことが考えられるか
- ※ ワークショップには、都市防災コース、建築コースの学生26名が参加













- ✓ 安心・安全な建築・都市を創造する実践的な教育の場として、学生自らが考えたデザイン案が実際の空間として実現する機会
- ✓ 企業による実際の設計・デザイン業務では、何が必要となるか社会人の方々と直接かかわりながら学ぶことができる貴重な機会

3. 防災用備蓄倉庫の活用イメージ

防災用備蓄倉庫

- ①電力の安定供給や復旧に必要な資機材の備蓄 非常食、保存水、復旧に必要な資機材(ブルーシート等)を 備蓄。非常災害時には地域防災のために活用
- ②**復旧支援の指揮所** 自社のみならず電力会社間での広域応援時など、指揮所として 活用
- ③**防災教育の場としての活用** 地域の防災教育、非常災害訓練など、地域の防災力向上・啓発 のために活用



(1階) 備蓄倉庫

- 最新性の管理の仕組みを導入し、入荷〜棚卸までを安全、効率的に実施
- 駐車場との段差を無くし搬出入の安全性を向上





(2階)会議室

- 防災教育、AED講習、避難所設営訓練
- 防災関連授業で地元地域に認知いただけるエリアへ









EVステーション

充電機能を活用した地域貢献

EVステーション







太陽光パネル付きカーポート・防災車両基地

災害復旧に従事する車両の集約、 基地拠点として利用

太陽光パネル付きカーポート



電力会社間での広域応援の拠点としての活用







駐車スペース

各種イベントの活用で賑わい創出・地域の防災力向上

非常災害訓練



イベント利用(キッチンカー、お花見)



課外授業、消防訓練



車中泊避難

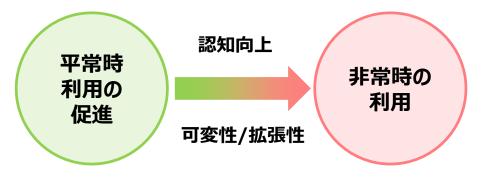


5. 緑地エリアの活用イメージ

緑地エリア

- ①非常時は防災機能が整備された広場として、地域の 方々へ開放
- ②平常時は地域イベント等でご活用いただき、地域の 賑わい創出に貢献

平常時利用を高めることで、非常時にも利用できる施設であることを地域の方々に知っていただく



(新潟県が推進する「防災産業クラスター」形成に資する)



マンホールトイレ



かまどベンチ





防災井戸